

平成 28 年度 十勝農試 定期作況報告

<http://www.hro.or.jp/list/agricultural/research/tokachi/sakukyo/index.html>

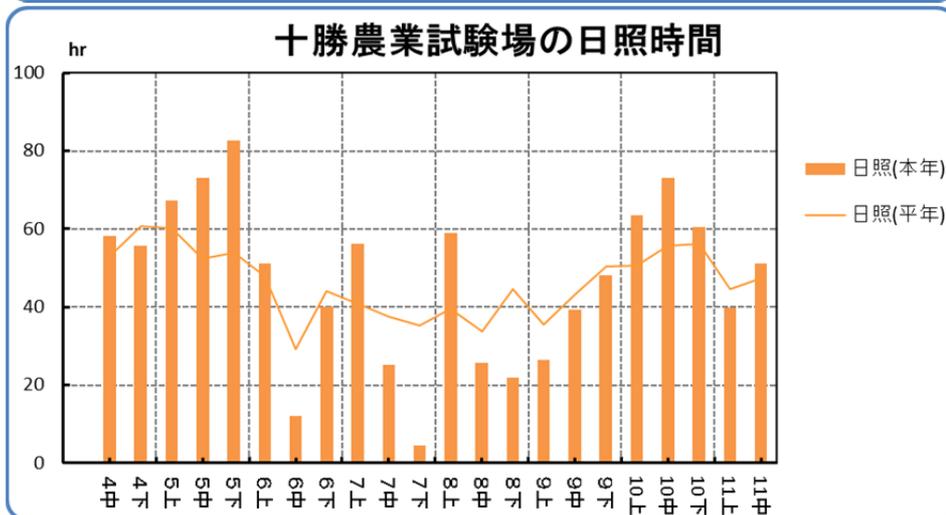
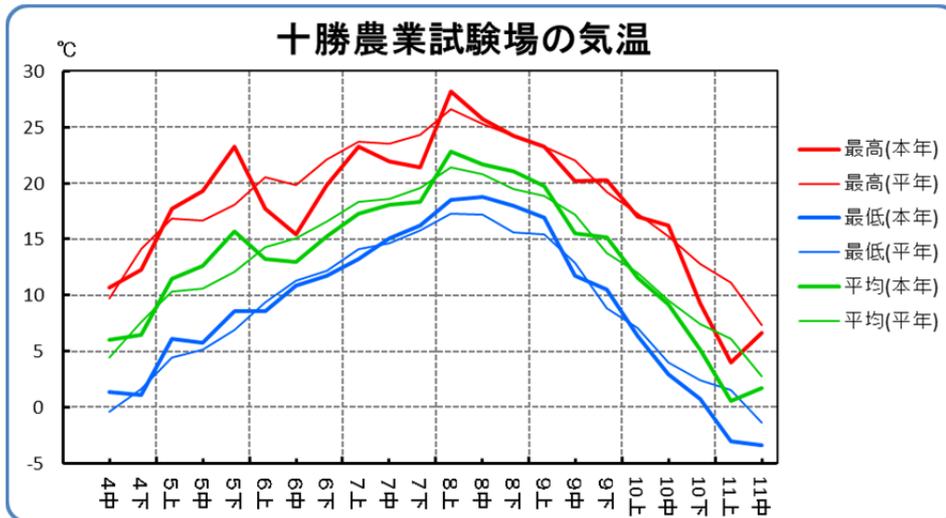
作況概要

	秋まき小麦	大豆	小豆	菜豆	ばれいしょ	てんさい
5月20日	平年並	—	—	—	—	平年並
6月20日	やや良	平年並	やや不良	やや不良	平年並	平年並
7月20日	平年並	やや不良	やや不良	やや不良	やや良	やや不良
8月20日	不良	やや不良	やや不良	やや不良	平年並	やや不良
9月20日	—	やや不良	不良	不良	やや不良	やや不良
10月20日	やや不良※	不良	不良	—	やや不良	不良
11月20日	不良	不良	不良	不良	やや不良	不良

注1) 当該作況は、十勝農業試験場における各作物の生育調査結果に基づき、平年との比較から収量予測を行うものであり、十勝管内全体の作況を表現しているものではありません。

注2) ※秋まき小麦 10月は本年播種の作況を示します。

気象経過



平成 27 年

- 9月 平均気温は上中旬が低かった。降水量は下旬が少なかった。日照時間は平年並であった。
- 10月 平均気温は中下旬が低かった。降水量は上旬が多く、中下旬はかなり少なかった。日照時間はやや多かった。
- 11月 平均気温は中旬が高かった。降水量は上下旬が少なかった。日照時間は平年並であった。
- 12月 平均気温は中旬が高かった。降水量は少なかった。日照時間は平年並であった。

平成 28 年

- 1月 平均気温は上旬が高かった。降水量は上下旬が少なかった。日照時間は中旬が少なく、下旬が多かった。
- 2月 平均気温は中旬が高く、下旬が低かった。降水量は中下旬が多かった。日照時間は平年並であった。
- 3月 平均気温は上旬が低かった。降水量は少なかった。日照時間は中下旬が多かった。
- 4月 平均気温は上中旬が高かった。降水量は上旬が少なかった。日照時間は上旬がやや少なかった。
- 5月上旬 平均気温はやや高く、降水量はかなり少なかった。日照時間はやや多かった。
- 5月中旬 平均気温は高く、降水量は多かった。日照時間は多かった。
- 5月下旬 平均気温は高く、降水量は少なかった。日照時間は多かった。
- 6月上旬 平均気温はやや低く、降水量は多かった。日照時間は平年並であった。
- 6月中旬 平均気温は低く、降水量はかなり多かった。日照時間は少なかった。
- 6月下旬 平均気温はやや低く、降水量は多かった。日照時間は平年並であった。
- 7月上旬 平均気温はやや低く、降水量は平年並であった。日照時間は多かった。
- 7月中旬 平均気温は平年並で、降水量は少なかった。日照時間は少なかった。
- 7月下旬 平均気温はやや低く、降水量は多かった。日照時間はかなり少なかった。
- 8月上旬 平均気温はやや高く、降水量は少なかった。日照時間は多かった。
- 8月中旬 平均気温はやや高く、降水量はかなり多かった。日照時間は少なかった。
- 8月下旬 平均気温はやや高く、降水量は非常に多かった。日照時間はかなり少なかった。
- 9月上旬 平均気温はやや高く、降水量はかなり多かった。日照時間は少なかった。
- 9月中旬 平均気温は低く、降水量は少なかった。日照時間は平年並であった。
- 9月下旬 平均気温はやや高く、降水量および日照時間は平年並であった。
- 10月上旬 平均気温は平年並で、降水量はかなり少なかった。日照時間は多かった。
- 10月中旬 平均気温は平年並で、降水量はかなり少なかった。日照時間は多かった。10月11日に初霜を観測した。
- 10月下旬 平均気温は低く、降水量は少なかった。日照時間は平年並であった。
- 11月上旬 平均気温はかなり低く、降水量および日照時間は平年並であった。
- 11月中旬 平均気温はやや低く、降水量はかなり少なかった。日照時間は平年並であった。

本年の農耕期間（5月上旬から9月下旬）の気象経過

平均気温は、平年に比べて、5月は高く経過し、その後、6月～7月は低く経過した。8月上旬から9月上旬は平年より高く経過した。よって、この期間の平均気温の積算値は平年より42℃高い2,565℃となり、平年比102%であった。

日照時間は、平年に比べて、5月は多く経過した。その後、6月中旬、7月中下旬は少なかった。8月上旬は多かったが、8月中旬からは9月上旬は少なく経過した。よって、この期間の日照時間の積算値は平年より17時間少ない632時間となり、平年比97%であった。

降水量は、平年に比べて、5月上旬、7月中旬、8月上旬、9月中旬を除いて平年並～多く経過し、特に6月中旬と8月中旬～9月上旬はかなり多かった。よって、この期間の降水量の積算値は平年より384mm多い954mmとなり、平年比167%であった。

以上から、本年の農耕期間（5月上旬から9月下旬）の気象は、5月の高温多照、6月から7月までの低温、8月から9月上旬の高温、6月中旬、7月中下旬および8月中旬～9月上旬の寡照、6月および8月中旬～9月上旬の多雨が特徴的であった。積算の平均気温および日照時間はほぼ平年並、降水量は平年より著しく多かった。

農耕期間の積算値 道総研(十勝農業試験場)

期間	項目	平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	日照時間 (hr)	降水量 (mm)	降水日数 (日)	地温 (℃)
4月中旬 ～	本年	2,899	3,881	2,031	925	1,061	80	3,387
	10年平均	2,957	4,046	2,017	918	746	71	3,386
11月上旬	比較	△ 58	△ 165	15	7	315	9	1
5月上旬 ～	本年	2,565	3,285	1,949	632	954	61	2,891
	10年平均	2,523	3,327	1,848	650	570	55	2,859
9月下旬	比較	42	△ 43	101	△ 17	384	6	32

季節調査について

平成27年の根雪始は平年より9日早く、平成28年の根雪終は平年より1日早かったことから、積雪期間は平年より9日長い133日間であった。晩霜は平年より12日早く、初霜は平年より1日遅かったことから、無霜期間は平年より13日長い161日間であった。降雪始は、平年より13日早い10月24日であった。

季節表(十勝農業試験場)

年次	初霜 (年.月.日)	根雪始 (年.月.日)	根雪終 (年.月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年.月.日)	耕鋤始 (年.月.日)	晩霜 (年.月.日)	初霜 (年.月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (年.月.日)
本年	H27.10.6	H27.11.24	H28.4.4	133	H28.4.29	H28.4.13	H28.5.2	H28.10.11	161	H28.10.24
平年	10.10	12.3	4.5	124	4.27	4.17	5.14	10.10	148	11.6
比較	-4	-9	-1	9	2	-4	-12	1	13	-13

*各季節表項目は、平成28年11月20日現在の十勝農試での観測による。

平成28年度 十勝農試定期作況報告 秋まき小麦

月	作況	事由
10月20日	平年並	播種は平年より4日早く、出芽期は5日早かった。出芽後、気温は概ね平年並に経過し、日照時間は9月第6半旬を除いて平年より長かった。このため分けつが進み、葉数は平年並で、草丈は平年より短く、茎数は多かった。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
5月20日	平年並	小麦試験圃場の融雪期は3月18日で、雪腐病の発生は少なかった。起生期の茎数は越冬前を上回っており、越冬状況は良好であった。草丈は平年より高く、茎数は平年より少なかった。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
6月20日	やや良	5月下旬は高温多照となったため生育は進み、出穂期は平年より5日早かった。6月上旬、中旬は低温・多雨となり、生育は停滞傾向であるが、草丈は平年より長く、茎数は平年より多かった。 以上のことから、現在の作況はやや良である。
7月20日	平年並	6月下旬から7月中旬にかけて低温に経過したため、登熟は緩慢であった。このため、成熟期は平年より遅れる見込みである。稈長は平年より長く、穂長は平年並で、穂数は平年より多かった。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
8月20日	不良	7月下旬は低温・寡照・多雨に経過し、登熟は緩慢であった。このため、成熟期は平年より7日遅れ、登熟は不良となった。子実重は平年より少なく、リットル重、千粒重は小さかった。 以上のことから、現在の作況は不良である。
11月20日	不良	播種は平年より4日、出芽期は5日それぞれ早く、越冬前の生育は順調であった。雪腐病の発生は少なく、越冬状況は良好であった。5月下旬は高温・多照で生育は進み、草丈は平年より高く、茎数は多く、出穂期は平年より5日早い6月2日であった。6月上旬から7月中旬までは低温に経過した。稈長は長く、穂長は平年並で、穂数は多かった。7月下旬は低温・寡照・多雨に経過し、登熟は緩慢であった。このため、成熟期は平年より7日遅れの8月1日であった。登熟不良のため、リットル重、千粒重は小さく、子実重は平年比83%で低収となり、検査等級は規格外であった。 以上のことから、本年の作況は不良である。

生育データ

品種名	きたほなみ			
	項目/年次	本年	平年	比較
播種期(月日)		9.18	9.22	△ 4
出芽期(月日)		9.25	9.30	△ 5
起生期(月日)*		4.2	-	-
出穂期(月日)		6.2	6.7	△ 5
成熟期(月日)		8.1	7.24	8
葉数(枚)	10月20日	3.5	3.5	0.0
	11月15日*	5.6	-	-
草丈(cm)	10月20日	17.7	20.4	△ 2.7
	5月20日	58.7	45.0	13.7
	6月20日	102.1	95.7	6.4
茎数(本/m ²)	10月20日	792	529	263
	11月15日*	1,706	-	-
	起生期*	2,704	-	-
	5月20日	1,121	1,205	△ 84
成熟期	稈長(cm)	93.2	87.3	5.9
	穂長(cm)	8.8	8.6	0.2
	穂数(本/m ²)	971	716	255
子実重(kg/10a)	568	687	△ 119	
同上対平年比(%)	83	100	△ 17	
リットル重(g)	781	814	△ 33	
2.2mm篩い上率(%)	94.0	93.4	0.6	
千粒重(g)	36.9	39.2	△ 2.3	
検査等級	規格外	2上	-	

備考1) 平年値は、前7か年中、平成27年収穫(豊作)、22年収穫(凶作)を除く5年平均。年次は収穫年。

備考2) △は平年より早、少、短を表す。*は越冬前後の生育を示すが、平年値がないため本年分のみ示した。

耕種概要

一区面積(m ²)	区制	前作物	畦幅(cm)	播種日(月日)	播種量(粒/m ²)
9.6	4	緑肥トウモロコシ	30	9.18	255

肥料名	施用量(kg/10a)	要素量(kg/10a)				備考
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	
S502	80	4	16	9.6	4	基肥
硫安	38	8				追肥(4/7)
	19	4				追肥(5/23)

平成28年播種 十勝農試定期作況報告 秋まき小麦

月	作況	事由
10月20日	やや不良	播種は平年より1日早く、出芽期は平年並であった。出芽後、10月の気温はやや低温に経過し、日照時間は平年より多かった。このため、葉数は平年よりやや多く、草丈は平年より短く、茎数は少なかった。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
5月20日		
6月20日		
7月20日		
8月20日		

生育データ

品種名		きたほなみ		
項目/年次		本年	平年	比較
播種期(月日)		9.20	9.21	△ 1
出芽期(月日)		9.28	9.28	0
葉数(枚)	10月20日	3.8	3.5	0.3
草丈(cm)	10月20日	18.6	20.6	△ 2.0
茎数(本/m ²)	10月20日	444	614	△ 170

備考1) 平年値は、前7か年中、平成27年収穫(豊作)、22年収穫(凶作)を除く5年平均。年次は収穫年。

備考2) △は平年より早、少、短を表す。

耕種概要

一区面積(m ²)	区制	前作物	畦幅(cm)	播種日(月日)	播種量(粒/m ²)	
9.6	4	緑肥トウモロコシ	30	9.20	255	
肥料名	施用量(kg/10a)	要素量(kg/10a)				備考
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	
S502	80	4	16	9.6	4	基肥

平成28年度 十勝農試 定期作況報告 大豆

月	作況	事由
6月20日	平年並	播種期は平年より1日早い5月19日であった。播種後、好天に恵まれたため出芽は良好で、出芽期は平年より5日早かった。しかし、出芽後は気温の低い日が多く、主茎長・主茎節数は平年並である。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
7月20日	やや不良	6月下旬以降、低温傾向が続き、生育は停滞した。開花始は平年より5日遅い7月18日となった。主茎節数が平年並、分枝数は平年よりやや多いが、主茎長は平年を下回った。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
8月20日	やや不良	8月上旬からの好天により生育は回復し、主茎長は平年並、主茎節数および分枝数は平年を上回った。着莢数は平年比97%であった。8月17日の台風により中～多程度の倒伏が発生しており、登熟への影響が懸念される。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
9月20日	やや不良	8月下旬から9月上旬にかけて高温傾向となり、主茎長、主茎節数および分枝数は平年を上回ったが、着莢数は平年比96%であった。8月下旬以降の台風により倒伏程度は“多”となり、成熟期は平年より遅れることが見込まれる。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
10月20日	不良	成熟期は平年より7日遅かった。主茎長、主茎節数および分枝数は平年を上回った。百粒重は平年並だったが、着莢数は平年より少なく、一莢内粒数は平年よりかなり少なかった。このため、子実重は平年対比77%と大きく下回った。 以上のことから、現在の作況は不良である。
11月20日	不良	播種期は平年より1日早かった。播種後は好天に恵まれたため出芽は良好で、出芽期は平年より5日早かった。しかし、出芽以降は低温傾向となったため生育は停滞し、開花始は平年より5日遅かった。8月上旬からは高温となったため生育は回復し、着莢数は平年よりやや少なかったが、主茎長は平年並～高く、主茎節数および分枝数は平年を上回って経過した。8月中旬以降に台風被害を複数回受けたため倒伏が多発し、成熟期は平年より7日遅かった。成熟期の着莢数は平年より少なく、百粒重は平年並だったが、一莢内粒数は平年よりかなり少なかった。このため、子実重は平年対比77%と大きく下回った。品質は“3上”で平年を下回った。 以上のことから、本年の作況は不良である。

生育データ

品種名	ユキホマレ			
	項目/年次	本年	平年	比較
播種期(月日)	5.19	5.20	△1	
出芽期(月日)	5.28	6.2	△5	
出芽率(%)	94.9	91.9	3.0	
開花始(月日)	7.18	7.13	5	
成熟期(月日)	9.29	9.22	7	
主茎長 (cm)	6月20日	12.7	12.2	0.5
	7月20日	53.3	64.2	△10.9
	8月20日	76.8	74.8	2.0
	9月20日	78.4	74.2	4.2
	成熟期	77.1	73.9	3.2
主茎節数 (節)	6月20日	3.3	3.2	0.1
	7月20日	10.3	10.6	△0.3
	8月20日	11.5	10.9	0.6
	9月20日	11.9	10.8	1.1
	成熟期	11.6	10.8	0.8
分枝数 (本/株)	7月20日	5.2	4.5	0.7
	8月20日	5.4	4.9	0.6
	9月20日	5.6	4.6	1.0
	成熟期	5.0	4.3	0.7
着莢数 (莢/株)	8月20日	74.2	76.8	△2.6
	9月20日	65.7	68.3	△2.6
	成熟期	63.0	67.2	△4.2
一莢内粒数(粒)	1.64	1.80	△0.16	
子実重(kg/10a) ³⁾	291	379	△88	
百粒重(g) ³⁾	39.1	39.4	△0.3	
屑粒率(%)	2.8	1.8	1.0	
品質(検査等級) ⁴⁾	3上	2下	—	
子実重対平年比(%)	77	100	△23	

備考1) 平年値は、前7か年中、平成26年(豊作年)及び21年(凶作年)を除く5か年平均である。

- 2) △は、平年と比較して「早」、「少」、「短」、「軽」、「低」を表す。
- 3) 水分含量15%に換算した値。
- 4) 農産物検査による等級。2等・3等は上・中・下に分けた。

耕種概要

一区面積 (m ²)	区制	前作物	畦幅 (cm)	株間 (cm)	1株本数	株数 (株/10a)	播種日 (月日)	種子処理
16.8	3	緑肥えん麦	60	20	2	8,333	5.19	クルーザーMAXX
施肥量 (kg/10a)								
N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	堆肥	その他			
1.8	15.0	7.8	3.0	なし	なし			

平成28年度 十勝農試 定期作況報告 小豆

月	作況	事由
6月20日	やや不良	播種期は平年より1日遅い5月24日であった。5月下旬は降水量が少なく、出芽期は平年より3日遅れた。6月中旬の低温寡照により生育は停滞し、主茎長及び本葉数は平年を下回っている。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
7月20日	やや不良	6月下旬以降も低温傾向が続いたことから生育は停滞し、主茎長、本葉数、分枝数ともに平年を下回っている。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
8月20日	やや不良	7月下旬まで低温寡照傾向が続いたが、8月上旬に高温多照となったことから生育は回復し、主茎長、本葉数、分枝数は平年並である。開花始が平年より7日遅く、現時点では着莢数は平年より少ない。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
9月20日	不良	8月上旬から9月上旬まで気温はやや高く経過し、「エリモショウズ」の成熟期は9月19日であった。日照が少なく徒長気味に生育し、主茎長及び主茎節数は平年を上回っているが、着莢数は平年より少ない。断続的な降雨の影響による莢の腐敗等が見られる。 以上のことから、現在の作況は不良である。
10月20日	不良	「きたろまん」及び「アカネダイナゴン」の成熟期は平年より7~9日遅かった。3品種ともに着莢数及び一莢内粒数は平年より少なく、百粒重は「エリモショウズ」で平年並、「きたろまん」及び「アカネダイナゴン」でやや重かった。子実重は平年比75~81%と平年を大きく下回り、層粒率は平年より高かった。 以上のことから、現在の作況は不良である。
11月20日	不良	播種期は平年より1日遅く、出芽期は干ばつ傾向により平年より3日遅かった。出芽後から7月下旬まで低温寡照傾向であったことから生育は緩慢で、開花始は平年より7~8日遅かった。8月上旬に高温多照となったことから主茎長は平年を上回ったものの、開花前までの生育量が少なく、また8月中旬以降日照が少なかったことから着莢数は少なかった。生育の遅れにより成熟期は平年より3~9日遅かった。 百粒重は「エリモショウズ」で平年並、「きたろまん」及び「アカネダイナゴン」で平年よりやや重く、着莢数及び一莢内粒数は3品種ともに平年より少なかった。子実重は平年比75~81%と平年を大きく下回った。8月中旬から9月上旬にかけての多雨に起因する発芽・腐敗粒等により層粒率は平年より高く、検査等級は平年を下回った。 以上のことから、本年の作況は不良である。

生育データ

項目/年次	きたろまん			エリモショウズ			アカネダイナゴン			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月日)	5.24	5.23	1	5.24	5.23	1	5.24	5.23	1	
出芽期(月日)	6.10	6.7	3	6.10	6.7	3	6.10	6.7	3	
開花始(月日)	7.30	7.22	8	7.29	7.22	7	7.30	7.23	7	
成熟期(月日)	9.22	9.13	9	9.19	9.16	3	9.28	9.21	7	
主茎長 (cm)	6月20日	3.2	4.4	△ 1.2	3.5	5.0	△ 1.5	3.7	5.2	△ 1.5
	7月20日	12.7	24.6	△ 11.9	14.1	25.8	△ 11.7	13.2	23.2	△ 10.0
	8月20日	76.5	70.9	5.6	78.9	74.7	4.2	79.0	81.4	△ 2.4
	9月20日	94.1	79.8	14.3	85.8	82.4	3.4	102.7	93.3	9.4
成熟期	96.3	79.7	16.6	85.8	82.4	3.4	107.1	93.1	14.0	
本葉数 (枚)	6月20日	0.2	0.9	△ 0.7	0.2	0.9	△ 0.7	0.3	0.8	△ 0.5
	7月20日	5.3	7.4	△ 2.1	5.5	7.8	△ 2.3	5.8	8.0	△ 2.2
	8月20日	13.0	12.2	0.8	14.1	13.5	0.6	15.6	15.1	0.5
主茎節数 (節)	9月20日	15.6	12.9	2.7	15.2	13.9	1.3	18.2	15.7	2.5
	成熟期	15.5	13.0	2.5	15.2	14.0	1.2	17.6	15.8	1.8
分枝数 (本/株)	7月20日	3.0	3.6	△ 0.6	2.2	3.7	△ 1.5	2.4	3.7	△ 1.3
	8月20日	3.7	4.0	△ 0.3	4.1	4.4	△ 0.3	5.5	4.8	0.7
	9月20日	3.2	3.1	0.1	2.7	3.7	△ 1.0	4.1	4.6	△ 0.5
	成熟期	3.4	3.2	0.2	2.7	3.7	△ 1.0	3.8	4.7	△ 0.9
着莢数 (莢/株)	8月20日	49.1	69.8	△ 20.7	53.7	74.7	△ 21.0	38.4	72.4	△ 34.0
	9月20日	48.6	53.9	△ 5.3	53.0	60.9	△ 7.9	55.8	73.0	△ 17.2
	成熟期	47.9	54.3	△ 6.4	53.0	61.1	△ 8.1	51.8	73.2	△ 21.4
一莢内粒数(粒)	5.16	6.41	△ 1.25	5.56	6.03	△ 0.47	3.84	4.05	△ 0.21	
総重(kg/10a)	573	643	△ 70	520	708	△ 188	571	647	△ 76	
子実重(kg/10a)	319	393	△ 74	279	373	△ 94	286	372	△ 86	
百粒重(g)	16.2	15.6	0.6	13.5	13.5	0.0	18.4	17.6	0.8	
層粒率(%)	8.4	3.4	5.0	7.8	5.9	1.9	12.0	5.7	6.3	
品質(検査等級)	3下	3中	-	4上	3中	-	4下	4上	-	
子実重対平年比(%)	81	100	△ 19	75	100	△ 25	77	100	△ 23	

- 備考 1) 平年値は、前7か年中、平成27年(豊作年)及び22年(凶作年)を除く5年平均である。
 2) △は平年と比較して「早」、「少」、「短」、「軽」、「低」を表す。
 3) 着莢数は、8月20日現在は莢長3cm以上、9月20日現在及び成熟期は稔実莢を示す。
 4) 品質(検査等級)は旧農産物規格規定(一般小豆の規格その1(素俵))に準ずるものである。

耕種概要

一区面積 (㎡)	区制	前作物	畦幅 (cm)	株間 (cm)	1株本数	株数 (株/10a)	播種日 (月日)
12.0	3	えん麦 野生種	60	20	2	8,333	5.24
施肥量(kg/10a)							
N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	堆肥	その他		
4	20	11.2	4	なし	なし		

平成28年度 十勝農試定期作況報告 菜豆

月	作況	事由
6月20日	やや不良	播種期は平年より2日早い5月26日であった。5月下旬は降水量が少なく、出芽期はやや遅れた。6月中旬の低温寡照のため初期生育は緩慢で、草丈は平年並であったが、葉数は平年を下回っている。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
7月20日	やや不良	6月下旬以降も低温傾向が続いたことから生育は停滞し、金時類の開花始は平年より3~4日遅かった。草丈、葉数、分枝数は手亡類、金時類ともに平年を下回っている。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
8月20日	やや不良	7月下旬も引き続き低温寡照傾向のため、開花始は平年より3~5日遅れた。8月以降は高温に経過したが、依然として草丈および葉数は平年を下回っている。分枝数は手亡類は平年並、金時類は平年をやや下回っている。着莢数は平年より手亡類はやや多く、金時類はやや少ない。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
9月20日	不良	8月下旬から9月上旬にかけてやや高温に経過し、最低気温も高く推移したため、成熟期はほぼ平年並となった。着莢数および一莢内粒数はほぼ平年並だったが、百粒重が平年より軽く、子実重は平年を下回った。 台風により8月中旬から倒伏が多く発生した上、8月中旬から9月上旬まで降雨が平年より著しく多かったことから、特に金時類では色流れ粒や腐敗粒、発芽粒が多く生じ、屑粒率は著しく高かった。 以上のことから、現在の作況は不良である。
11月20日	不良	播種は平年より2日早く、出芽期は平年より1日遅かった。6月中旬から7月下旬まで低温寡照傾向のため生育は遅延し、開花始は平年より3~5日遅れた。8月上旬からは高温で推移したため、成熟期はほぼ平年並となった。 手亡類は着莢数は平年並だったが、百粒重が平年より軽く、子実重は平年比84%と低収であった。金時類では、一莢内粒数は平年並からやや上回ったものの、着莢数と百粒重は平年を下回り、子実重は平年比80%と低収であった。 台風により8月中旬から倒伏が多く発生した上、金時類の登熟後期である8月中旬から9月上旬まで降雨が平年より著しく多かった。そのため、金時類では色流れ粒や腐敗粒、発芽粒が多く生じ、屑粒率は著しく高く、検査等級は平年を下回った。手亡類については9月中旬の降雨が少なかったことから屑粒率が低く、検査等級は平年を上回った。 以上のことから、本年の作況は不良である。

生育データ

品種名	雪 手 亡			大 正 金 時			福 勝			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
項目/年次	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月日)	5.26	5.28	△ 2	5.26	5.28	△ 2	5.26	5.28	△ 2	
出芽期(月日)	6.9	6.8	1	6.10	6.9	1	6.11	6.10	1	
開花始(月日)	7.25	7.20	5	7.14	7.11	3	7.15	7.11	4	
成熟期(月日)	9.15	9.14	1	9.1	9.1	0	9.4	9.6	△ 2	
草丈 (cm)	6月20日	7.7	6.8	0.9	9.4	10.4	△ 1.0	9.3	9.8	△ 0.5
	7月20日	39.1	54.3	△ 15.2	35.8	52.5	△ 16.7	35.3	53.3	△ 18.0
	8月20日	60.8	66.7	△ 5.9	42.6	56.4	△ 13.8	47.1	61.2	△ 14.1
	9月20日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	成熟期	52.7	64.9	△ 12.2	46.8	55.1	△ 8.3	48.4	58.6	△ 10.2
葉数 (枚)	6月20日	0.2	1.1	△ 0.9	0.2	0.9	△ 0.7	0.3	1.1	△ 0.8
	7月20日	5.5	6.8	△ 1.3	3.1	3.7	△ 0.6	3.4	3.9	△ 0.5
	8月20日	6.5	6.9	△ 0.4	3.3	3.8	△ 0.5	3.6	3.9	△ 0.3
	9月20日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
主莖節数(節)	成熟期	8.0	8.7	△ 0.7	5.1	5.7	△ 0.6	5.3	5.8	△ 0.5
分枝数 (本/株)	7月20日	7.1	9.2	△ 2.1	4.9	7.9	△ 3.0	4.1	7.7	△ 3.6
	8月20日	9.5	8.9	0.6	5.5	6.4	△ 0.9	5.4	5.7	△ 0.3
	9月20日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	成熟期	7.4	8.1	△ 0.7	4.2	6.0	△ 1.8	4.8	5.2	△ 0.4
着莢数 (莢/株)	8月20日	38.7	35.8	2.9	16.1	17.5	△ 1.4	15.4	17.1	△ 1.7
	9月20日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	成熟期	32.3	31.1	1.2	15.7	16.7	△ 1.0	15.3	15.5	△ 0.2
一莢内粒数(粒)	4.25	4.48	△ 0.23	2.99	2.96	0.03	2.82	2.66	0.16	
総重(kg/10a)	537	653	△ 116	411	557	△ 146	430	562	△ 132	
子実重(kg/10a)	304	360	△ 56	224	280	△ 56	222	276	△ 54	
百粒重(g)	29.3	32.6	△ 3.3	62.9	70.2	△ 7.3	75.1	83.4	△ 8.3	
屑粒率(%)	9.4	17.9	△ 8.5	82.2	15.3	66.9	46.8	21.4	25.4	
品質(検査等級)	1等	3下		等外	3上		等外	3中		
子実重対平年比(%)	84	100	△ 16	80	100	△ 20	80	100	△ 20	

- 備考 1) 平年値は、前7か年中、平成23年(豊作年)及び27年(凶作年)を除く5か年平均である。
 ただし、9月20日の各調査項目の平年値は、年次により成熟期後となるため算出していない。
 2) △は平年と比較して「早」、「少」、「短」、「軽」、「低」を表す。
 3) 屑粒は、病害粒、変色粒(色流れ)、未熟粒等を含む。
 4) 品質(検査等級)は、旧農産物規格規定(普通いんげんの規格その1(素俵))に準ずるものである。

耕種概要

一区面積 (㎡)	区制	前作物	畦幅 (cm)	株間 (cm)	1株本数	株数 (株/10a)	播種日 (月日)
12	3	春まき小麦	60	20	2	8,333	5.26
施肥量 (kg/10a)							
N	P2O5	K2O	MgO	堆肥	その他		
4	20	11.2	4	なし	なし		

平成28年度 十勝農試 定期作況報告 ばれいしょ

月	作況	事由
6月20日	平年並	植付期は平年より1日遅い5月10日であった。植え付け後は気温が高く、萌芽期は平年に比べ2～3日早かったが、6月に入って低温・寡照、多雨となったため生育が停滞した。茎数は平年をやや上回ったが、茎長は平年をやや下回った。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
7月20日	やや良	6月下旬以降も気温は低く推移し、開花始めは平年より1～2日遅かった。いずれの品種も茎長は平年を下回り茎数は平年並であったが、上いも重は各品種とも平年を10%前後上回った。 以上のことから、現在の作況はやや良である。
8月20日	平年並	7月下旬は降水量が多く、低温寡照に経過したため生育が停滞した。8月上旬は高温となり、倒伏した株に軟腐病が発生した。各品種とも茎長は平年を下回り、上いも重も平年をわずかに下回ったが、でん粉価は平年より高かった。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
9月20日	やや不良	枯凋期は「男爵薯」で平年より6日早く、「トヨシロ」は5日早かった。「男爵薯」の一個重は平年よりやや重く、上いも重は平年を上回った。また、でん粉価も平年を1.0ポイント上回った。一方「トヨシロ」は一個重が平年を下回り、いも数も少なかったため、上いも重は平年を10%下回った。でん粉価も平年を0.9ポイント下回った。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
10月20日	やや不良	「コナフブキ」の枯凋期は平年に比べ4日早く、上いも数、一個重とも平年をやや下回ったため、上いも重は平年を4%下回った。また、でん粉価も平年を0.6ポイント下回り、でん粉重は平年を7%下回った。 以上のことから、前回の「男爵薯」「トヨシロ」を含め、本年の作況はやや不良である。
11月20日	やや不良	植付期は平年より1日遅い5月10日であった。植え付け後は気温が高く、萌芽期は平年に比べ2～3日早かったが、6月に入って低温・寡照、多雨となったため生育が停滞した。6月下旬以降も気温は低く推移し、開花始めは平年より1～2日遅かった。いずれの品種も茎長は平年を下回り茎数は平年並であったが、上いも重は各品種とも平年を10%前後上回った。7月下旬は降水量が多く、低温寡照に経過したため生育が停滞した。8月上旬は高温となり、倒伏した株に軟腐病が発生した。枯凋期は「男爵薯」で平年より6日早く、「トヨシロ」は5日、「コナフブキ」は4日早かった。「男爵薯」の一個重は平年よりやや重く、上いも重は平年を上回り、でん粉価も平年より高かった。一方「トヨシロ」は一個重が平年を下回り、いも数も少なかったため、上いも重は平年を10%下回った。でん粉価も平年より低かった。「コナフブキ」は上いも数、一個重とも平年をやや下回ったため、上いも重は平年を4%下回った。また、でん粉価も平年より低く、でん粉重は平年を7%下回った。 以上のことから、本年の作況はやや不良である。

生育データ

品種名		男爵薯			トヨシロ			コナフブキ		
項目/年次		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期(月日)		5.10	5.9	1	5.10	5.9	1	5.10	5.9	1
萌芽期(月日)		5.27	5.29	△2	5.28	5.30	△2	5.27	5.30	△3
開花始(月日)		6.29	6.28	1	7.1	6.30	1	6.29	6.27	2
枯凋期(月日)		8.24	8.30	△6	8.28	9.2	△5	9.18	9.22	△4
茎長 (cm)	6月20日	24.9	26.7	△1.8	18.8	21.0	△2.2	27.7	32.3	△4.6
	7月20日	48.9	53.4	△4.5	57.2	66.6	△9.4	72.0	80.7	△8.7
	8月20日	49.7	54.6	△4.9	58.9	68.6	△9.7	76.3	89.7	△13.4
茎数 (本/株)	6月20日	4.4	3.8	0.6	3.5	3.0	0.5	4.3	3.8	0.5
	7月20日	4.2	4.2	0.0	3.1	3.2	△0.1	4.8	4.7	0.1
7月20日	上いも重(kg/10a)	2,412	2,178	234	2,414	2,137	277	1,927	1,768	159
8月20日	上いも重(kg/10a)	4,009	4,078	△69	4,086	4,235	△149	3,820	3,854	△34
	同上平年比(%)	98	100	△2	96	100	△4	99	100	△1
	でん粉価(%)	16.1	14.9	1.2	16.9	16.0	0.9	21.4	20.6	0.8
収穫期	上いも数(個/株)	11.2	11.3	△0.1	9.8	10.3	△0.5	11.7	12.1	△0.4
	上いも一個重(g)	83	81	2	91	98	△7	81	83	△2
	上いも重(kg/10a)	4,139	4,038	101	3,931	4,367	△436	4,203	4,380	△177
	中以上いも重(kg/10a)	3,499	3,357	142	3,457	3,862	△405	-	-	-
	でん粉価(%)	15.7	14.7	1.0	15.2	16.1	△0.9	20.7	21.3	△0.6
	でん粉重(kg/10a)	608	552	56	557	660	△103	829	891	△62
平年比 (%)	上いも重	103	100	3	90	100	△10	96	100	△4
	でん粉重	110	100	10	84	100	△16	93	100	△7

備考) 1)平年値は、前7か年中、22年(凶作年)及び平成24年(豊作年)を除く5か年平均である。

2)△は平年より早、少、短、軽、低を表す。

耕種概要

一区面積 (㎡)	区制	前作物	畦幅(cm)	株間(cm)	株数 (株/10a)	植付日 (月日)
54	3	緑肥 トウモロコシ	75	30	4,444	5.10
施肥量(kg/10a)						
N	P2O5	K2O	MgO	堆肥	その他	
8	20	14	5	なし	なし	

平成28年度十勝農試定期作況報告 てんさい

月	作況	事由
5月20日	平年並	移植期は平年より1日早い4月26日であった。移植直後に降水があったものの、苗が徒長気味であったため活着はやや遅れた。5月8日の強風により1割程度が枯死し補植を行ったが、5月11日のまとまった降雨と、その後の多照により生育は回復しつつある。草丈はやや平年を上回っており、葉数はほぼ平年並である。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
6月20日	平年並	5月下旬は気温が高く生育は順調であったが、6月に入ってから低温・寡照に経過し、草丈は平年を上回ったが、葉数は平年と同等であった。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
7月20日	やや不良	6月下旬以降気温は低めで、日照時間も7月上旬を除いて短く経過したことから、草丈・葉数は平年を上回ったが根重は平年を下回った。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
8月20日	やや不良	7月下旬は気温が低く、日照時間も非常に短かったため、生育が停滞した。8月上旬は気温が高く日照時間も長かったが、その後台風による多量の降雨があり、日照時間も短くなって、草丈・葉数は平年を上回ったが根重は平年を下回った。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
9月20日	やや不良	8月下旬から9月上旬にかけて気温は高めに経過したが、日照時間が非常に短く、生育は停滞気味であった。また、9月中旬は気温が低く、日照も少なかったため、草丈・葉数は平年を上回ったが根重は平年を下回った。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
10月20日	不良	10月上旬以降日照に恵まれ、気温は低めに推移したが、根中糖分は平年をやや下回った。茎葉重は平年並であったが、根重は平年を6%下回り、糖量は平年比91%であった。 以上のことから、本年の作況は不良である。
11月20日	不良	移植期は平年より1日早い4月26日であった。移植直後に降水があったものの、苗が徒長気味であったため活着はやや遅れた。5月中旬・下旬は気温が高く多照であったため生育は回復し、草丈は平年を上回った。6月上旬から7月下旬にかけて低温・寡照に経過し、生育が停滞した。8月上旬は気温が高く日照時間も長かったが、その後台風による多量の降雨があり、日照時間も短くなって、地上部の生育は平年を上回ったが根重は平年を下回った。8月下旬以降も日照時間が非常に短く、根部の生育は回復しなかった。10月上旬以降日照に恵まれ、気温は低めに推移したが、収穫時の根中糖分は平年をやや下回った。茎葉重は平年並であったが、根重は平年を6%下回り、糖量は平年比91%であった。 以上のことから、本年の作況は不良である。

生育データ

品種名		リッカ		
項目/年次	本年	平年	比較	
播種期(月日)	3.17	3.17	0	
発芽期(月日)	3.24	3.25	△1	
移植期(月日)	4.26	4.27	△1	
収穫期(月日)	10.18	10.20	△2	
草丈 (cm)	5月20日	8.0	5.5	2.5
	6月20日	41.2	36.1	5.1
	7月20日	70.1	65.6	4.5
	8月20日	77.2	73.0	4.2
	9月20日	76.3	73.4	2.9
生葉数 (枚)	10月20日	76.1	72.0	4.1
	5月20日	4.6	5.0	△0.4
	6月20日	13.4	13.1	0.3
	7月20日	20.3	19.5	0.8
	8月20日	26.8	22.6	4.2
根重 (kg/10a)	9月20日	32.4	26.9	5.5
	10月20日	32.7	27.9	4.8
	7月20日	2,067	2,402	△335
	8月20日	4,504	5,227	△723
9月20日		6,510	6,759	△249
10月20日		6,857	7,329	△472
茎葉重(kg/10a)		5,245	5,180	65
根重(kg/10a)		6,857	7,329	△472
根中糖分(%)		15.68	16.03	△0.35
糖量(kg/10a)		1,075	1,175	△100
T/R比		0.77	0.71	0.06
平年比(%)	茎葉重	101	100	1
	根重	94	100	△6
	根中糖分	98	100	△2
	糖量	91	100	△9

備考) 1)平年値は、前7か年中、平成27年(豊作年)及び22年(凶作年)を除く5か年平均である。
2)△は平年より早、少、短、軽、低を表す。

耕種概要

一区面積 (㎡)	区制	前作物	畦幅	株間	株数	
			(cm)	(cm)	(株/10a)	
57.6	3	緑肥 トウモロコシ	60	23.8	7,003	
施肥量(kg/10a)						
N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	B ₂ O ₅	堆肥	その他
15	21.3	13.8	5.0	0.38	3000	なし